

第56回建築士会全国大会しまね大会紹介

7) 島根のまちなみ

出雲部 3.平田町・美保関町

しまねには一昔前の佇まいを残した、情緒あるまちなみがいくつもあります。それぞれに歴史や時代背景などが異なり、特徴的なまちなみ景観を作っています。ここでは平田と美保関の二つのまちを紹介します。

出雲市平田町は、木綿を中心に出雲地方の物資が集まる町でした。位置的には松江と出雲大社の中間で、宍道湖の西側にあつて水運に恵まれた地です。木綿

街道とも呼ばれる通りには、醸造業や金融業を営む古い商家が並びます。

本石橋家は特に目を引く建築でも

あり、この町の特徴の一つでもある白壁とナマコ壁を持った妻入り民家の一つです。酒持田本店、來間屋生姜糖本舗、加藤醤油店など昔からの面影を残した店舗もそのままに営業しています。

松江市美保関町は島根半島の東端に位置し、美保造り（大社造りの変形）と呼ばれる重要文化財美保神社の門前町です。記紀神話にもこの町は登場し、それにちなんだ「青柴垣神事」なども連綿と続いています。古くから漁業が盛んで、北前船などの風待ち港としても栄えた港町故に回船問屋が軒を連ねていました。その面影を残した建物が港を囲んで立ち並んでいます。

美保神社の入り口から青石畳の狭い道が続いています。登録文化財の旅館「美保館」などが美しいまちなみを作っています。

美保館は内部に広い屋根無し空間があり独特の雰囲気を持っています。（今は屋根が架けられています）

